

症 例 報 告

食道に認められた皮脂腺の2例

Two Cases of Sebaceous Glands in the Esophagus

東京医科大学第4内科¹⁾, 同病院病理²⁾, 同第2病理³⁾

緑川昌子 ¹⁾	三治哲哉	半田 豊	森田重文
大野博之	吉田 肇	鶴井光治	三坂亮一
川口 実	斉藤利彦	清水 享 ²⁾	芹澤博美
廣田映五	海老原善郎 ³⁾		

はじめに

食道重層扁平上皮には、皮脂腺を認めないとされている。しかし最近内視鏡検査の進歩に伴い、狙撃生検にて皮脂腺を認めた報告例が増えつつある^{1)~11)}。今回我々は、食道生検にて皮脂腺を組織学的に確認した稀な2症例を経験したので報告する。

症 例 1

年 齢: 50 歳, 男性。

主 訴: 心窩部違和感。

既往歴: 特記すべきことなし。

家族歴: 父親が心臓病で死亡, 弟が胃癌で死亡。

現病歴: 平成5年10月頃より主訴が出現したため平成6年2月に本院受診した。

食道内視鏡所見: 門歯より30 cmを中心に、食道胃接合部まで淡黄白色の、扁平小隆起性病変と、淡白色の小隆起性病変が数個散在しているのを認めた。Color 1は中部食道の内視鏡像で、太い矢印が淡黄白色の小隆起性病変で、細い矢印が淡白色の小隆起性病変(生検にてglycogenic acanthosis)を示している。

生検組織所見: Fig. 1-aは淡黄白色扁平小隆起からの、弱拡大生検組織所見(HE染色)で食道扁平上

皮下に、核を中心とした泡沫状の胞体を有する細胞の集塊を認めた。また右下に扁平上皮層と連続する管構造も認め、導管に相当する所見である。Fig. 1-bは強拡大像で胞体は脂肪滴で満たされて明るく組織学的に皮脂腺に一致する所見であった。以上より食道に認められた異所性皮脂腺と診断した。

症 例 2

年 齢: 59 歳, 男性。

主 訴: 胸やけ。

既往歴: 特記すべきことなし。

家族歴: 父親が肺癌で死亡。

現病歴: 平成7年5月主訴にて本院受診。腹部超音波検査にて肝細胞癌が疑われ、同年6月入院となる。

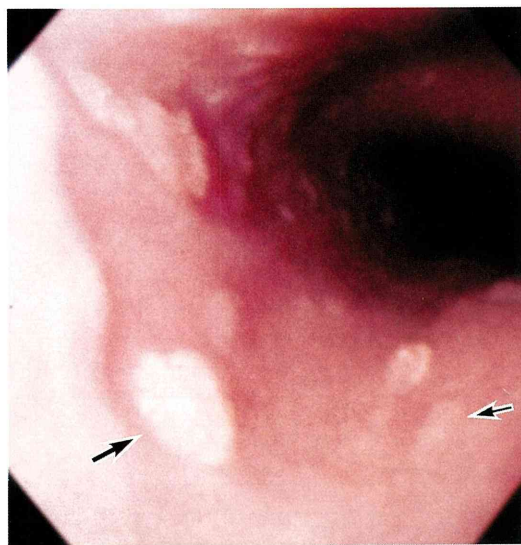
食道内視鏡所見: 門歯より30 cmを中心に、黄色顆粒状扁平隆起が散在しているのを認めた(Color. 2)。

生検組織所見: 黄色顆粒状扁平隆起からの生検組織では、症例1と同様に食道扁平上皮下に脂肪滴で満たされた、明るい泡沫状の胞体を有する細胞の集塊を認めた。

1996年6月20日受付, 1996年7月4日受理

キーワード: 異所性皮脂腺, 食道病変。

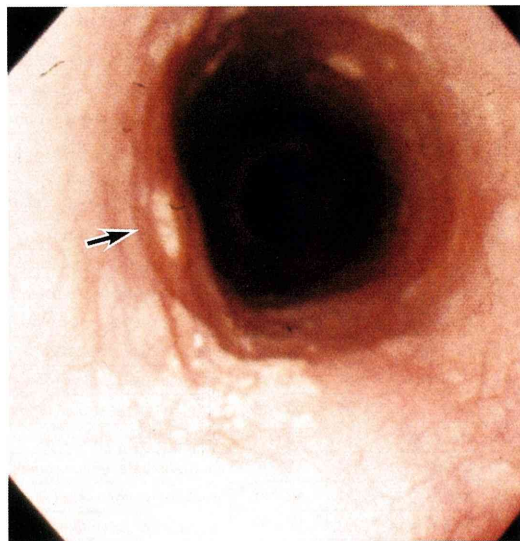
(別刷請求先: 〒160 東京都新宿区西新宿6-7-1 東京医科大学内科学第四講座 緑川昌子)



Color 1: Endoscopic examination of middle esophagus.

→ : Whitish-yellow color papules.

→ : Whitish color papules.



Color 2: Endoscopic examination of middle esophagus.

← : Whitish-yellow color papules.



Fig. 1a. Biopsy specimen from whitish-yellow color papules showed island collections of light color cells under the esophageal epithelium (H. E. stain).

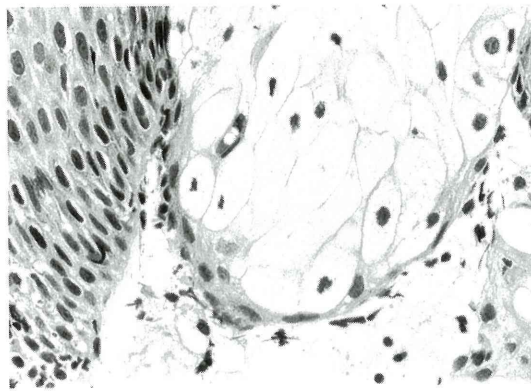


Fig. 1b. High-power microscopic examination showed the sebaceous glands with small and round nucleus and light color cytoplasm (H.E. stain).

考 察

異所性皮脂腺は口唇、口腔、唾液腺、乳頭、外陰部など外胚葉起源の臓器にしばしば認められる。しかし、内胚葉起源である食道上皮における皮脂腺は極めて稀とされてきたが、剖検食道で、組織学的皮脂腺¹²⁾と肉眼的皮脂腺¹³⁾が報告されている。また内視鏡的に肉眼的皮脂腺が診断され報告されている¹⁴⁾。我々が1980年より1994年までに検索した、食

道生検で診断された本邦報告例は自験例を含め34例^{11)~11)}である。そのうち詳細な記載のある23例をTable. 1に示す。年齢は42歳から76歳で平均55.5歳、男女比は17:5と男性に多かった。内視鏡像では大きさは、最大5~6 mm 平均3 mmで、5 mm未満のものは77.8% (14/18)と多い。単発性と多発性(2ヶ以上)に分けると、多発性のものが69.6% (16/23)と多く、色調では1例のみ白色で、そのほかは淡黄白色から黄色を呈している。病変の存在部位はほと

Table 1 The biopsy cases of Esophageal Ectopic Sebaceous glands in Japan.

No	Reporter	Year	Age	Sex	Endoscopic findings	Location	Size	Associated Disease
1	Fujiki	1989	42	M	two•pale•yellow•lobular plateau	medium	5~6mm	Liver Cirrhosis, Hepatoma
2	Akagi	1991	68	M	two•pale yellow•elevation	medium-low	1mm	Liver Cirrhosis
3	Akagi	1991	54	F	four•yellow•elevation	medium-low	1mm	Chronic Hepatitis
4	Akagi	1991	51	M	one•yellow•plateau	medium-low	1mm	(-)
5	Hoshihara	1991	67	M	multiple•yellow•rough elevation	medium	1~3mm	(-)
6	Hoshihara	1991	66	M	one•yellow•elevation	medium	4mm	Duodenal ulcer scar, Gastric erosion
7	Kumagai	1991	35	M	multiple•yellow•elevation	medium	1~2mm	(-)
8	Kumagai	1991	32	F	multiple•yellow•elevation	medium		(-)
9	Kumagai	1992	55	F	multiple•yellow•elevation	medium		(-)
10	Kumagai	1992	50	M	yellow•small elevation	total		Gastric erosion
11	Fujino	1992	44	M	multiple•pale yellow•elevation	low	2~3mm	(-)
12	Ishii	1992	60	M	pale yellow•granular plateau	medium	5mm	(-)
13	Nakazawa	1992	73		yellow•rough elevation	medium	6mm	Gastric ulcer scar
14	Seika	1993	53	F	multiple•pale yellow•small elevation	medium-low		Colon polyp
15	Ishii	1993	45	M	multiple•yellow•small elevation	medium		(-)
16	Nakakuma	1993	57	M	multiple•white•elevation	medium	1~3mm	(-)
17	Nakakuma	1993	59	M	multiple•pale yellow•plateau	medium	5mm	(-)
18	Niimi	1994	65	M	yellow•elevation	medium	1~2mm	Duodenal polyp, Gastric polyp
19	Niimi	1994	76	M	yellow•rough elevation	medium	1~2mm	Gastric erosion
20	Ishii	1994	39	F	multiple•yellow•granular elevation	medium	1~2mm	Duodenal ulcer
21	Nakata	1994	76	M	multiple•pale yellow•plateau	medium	1~2mm	(-)
22	our case	1994	50	M	multiple•pale yellow•plateau	medium-low	3mm	(-)
23	our case	1995	59	M	multiple•pale yellow•plateau	medium	2mm	Chronic Hepatitis

んどが中部から下部食道に認められる。食道静脈瘤や食道炎など、他の食道病変は認められず、また本疾患に関連した臨床症状も特に認められない。組織像では全例食道上皮下に淡明細胞の島状の集簇を認め、一部扁平上皮よりなる導管を伴うものもある。異所性食道皮脂腺の発生機序としては、先天説（迷入）と後天説（化生）の二つの説が考えられている。小児1,000例の剖検例による検索で、異所性食道皮脂腺は認められず¹⁵⁾、成人200例の検索では4例(2%)に組織学的皮脂腺を認められている¹²⁾。小児にみられず、成人に認められたという報告から、迷入よりも化生が考えられる。しかし、報告例では化生の原因となるような逆流性食道炎の合併は認められない。以上のように発生機序および病的意義は、現在のところ不明である。Pava¹²⁾の報告にて成人の2%にみとめられたことにより、実際には報告例よりも高頻度に、食道異所性皮脂腺は存在すると思われる。内視鏡医は食道内視鏡検査時に詳細な観察を行い、淡黄白色調小隆起性病変に対し積極的に生検を行い、食道異所性皮脂腺の発見につとめるべきである。

おわりに

食道生検にて皮脂腺を組織学的に確認した、2例を経験したので若干の文献的考察を加え報告した。今後注意深い内視鏡検査を行うことによりさらに症例が蓄積されるものと思われる。

文 献

- 1) 藤木茂篤, 友田 純: 食道異所性脂腺の一例. *Gastroenterol Endosc* **31**: 1684, 1989
- 2) 赤木制二, 友田 純: 食道粘膜脂腺の4生検例. *日病理会誌* **80**: 85, 1991
- 3) Hoshihara Y, Hashimoto M, Yoshida Y, et al: Ectopic sebaceous glands in the esophagus: Report of two cases. *Dig Endosc* **3**: 247~248, 1991
- 4) 熊谷義也, 向井萬起男, 大森 泰, 幕内博康: 食道迷入皮脂腺の4症例. *Gastroenterol Endosc* **34**: 2983, 1992
- 5) 藤野 均, 戸田信夫, 丹沢佳子: Xanthoma様の内視鏡所見を呈した食道異所性皮脂腺の1例. *Gastroenterol Endosc* **35**: 197, 1993
- 6) 石井圭太, 三橋利温, 山縣さゆり: 食道に認められた脂腺の1例. *Gastroenterol endosc* **35**: 2251, 1993
- 7) 中澤 敦, 林 篤, 細田泰雄: 食道異所性皮脂腺の

- 1 例. *Gastroenterol Endosc* **35**: 2251, 1993
- 8) 星加和徳, 水野 充, 子塚一史, 内田純一, 清水道生 : 食道脂腺の 1 例. *Gastroenterol Endosc* **35**: 3095, 1993
- 9) 中熊尊士, 井原 厚, 山田至人, 比企能樹, 柿田 章, 石井圭太, 西元寺克禮, 三豊弘之 : 食道に認められた皮脂腺の 2 例. *Progress of Digestive Endoscopy* **44**: 166~167, 1994
- 10) 新見晶子, 山下克子, 秋本真寿美 : 食道迷入皮脂腺の 2 例. *Gastroenterol Endosc* **36**: 1408~1411, 1994
- 11) 中田哲也, 松井隆明, 鶴田由美, 鈴木克契, 小沢 靖, 堀口正晴 : 食道異所性脂腺の 1 例. *Gastroenterol Endosc* **36**: 1503, 1994
- 12) De La Pava S, Pickren JW : Ectopic sebaceous glands in the esophagus. *Arch Pathol* **73**: 397~399, 1962
- 13) Zak FG, Lawson W : Sebaceous glands in the esophagus. *Arch Dermatol* **112**: 1153~1154, 1976
- 14) Ramakrishnan T, Brinker JE : Ectopic sebaceous glands in the esophagus. *Gastroenterol Endosc* **24**: 293~294, 1978
- 15) Rector LF, Connerly ML : Aberrant mucosa in the esophagus in infants and in children. *Arch Path* **31**: 285~294, 1941
-